決算から見えたまちの課題

令和７年度の各事業の執行が、適切妥当であったのかを慎重に審査するため、同審査を決算特別委員会に付託し、３日間にわたり、さまざまな視点からの質疑を行いました。

ばいじんなどへの対応は

問 住民から車やサッシが黒く汚れるといった声をよく聞く。令和７年度はどのような取り組みをしたのか。

答 例年通り環境測定を行い環境基準を超えることはなかったが、事業所による現場確認を行う場合もあった。

町内業者優先発注は

問 令和７年度の町内業者落札数は、入札執行件数８６件に対して１８件であったが、今後増やす考えは。

答 物価高騰等で予定価格等が大きくなり限定案件が減ったが、今後は町内業者への発注基準の見直しを図っていきたい。

排水施設維持管理は

問 町内清掃後、自治会からの要望で、排水溝等の清掃ができなかった箇所の清掃依頼に対する対応状況は。

答 側溝等の清掃は、職員が現場立会いの上必要箇所を確認して、堆積率５％未満の箇所は清掃を見送る場合がある。



まちのお金をまちの力に



空きスペースの有効活用を

海苔の生産量は

問 海苔の生産量がデータなしになっているのはなぜか。

答 海苔を養殖されていた漁業協同組合の方が海苔の養殖を終了し、生産量がゼロになったためである。

財政調整基金適正率は

問 町債残高との関係において、財政調整基金をどの程度確保することが望ましいと考えているのか。

答 標準財政規模に対して３０％程度の財政調整基金を確保する指標があるが、特定目的基金も活用する。

自転車駐輪場の有効利用は

問 原付の一時利用と定期利用で空きスペースがある。そこに自転車の一時利用を入れる工夫は。

答 原付の配置の見直し等をすれば、自転車の一時利用の台数を増やせる可能性はあるため、検討していく。

中学校部活動地域展開は

問 部活動の地域展開以前からあるクラブチーム等との意見や方針の相違等はないのか。

答 双方に相違があるのは事実だが解消するために、ガイドラインの遵守や講習会の開催等の取り組みを行っている。

孤独・孤立支援は

問 孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを設置して、具体的にどのような取り組みが実施できたのか。

答 ヤクルト販売員が訪問時に気づいた状況に応じて、総合相談窓口などにつなぐ連携体制の構築等ができた。

子どもの居場所づくりは

問 子どもの居場所づくりとして、福祉しあわせセンター２階にあるが、常時施錠されている。機能しているのか。

答 施設の管理に関しては指定管理者が行っている。指定管理者と共に、今後の充実した活用方法を決めていきたい。



本を開けば広がる世界



安心できる　ここが居場所

マイナ保険証の拡充は

問 マイナンバーカードに保険証の機能を持たせても、福祉医療受給者証を紙で発行している。改善が必要では。

答 福祉医療受給者証の機能を令和９年１月を目途として、マイナ保険証に対応させる予定である。

電子図書館の利用拡大は

問 電子図書館は近隣市町ともっと連携して相互開放することで、選択肢も増えて利便性が向上するのではないか。

答 電子書籍の利用は、町民のみとしていたが、一部利用対象を拡充した。
　町民が他市町でも利用できるよう検討する。

読書活動の推進は

問 各学校の図書室の蔵書数は充実してきているが、児童生徒が読書に親しみを持てるような取り組みは。

答 保護者や校長等の読み聞かせ、絵本等を通したディベートバトルなど、各学校で工夫をして取り組んでいる。